

学校評価(児童・保護者アンケート)の結果と考察について

1 はじめに

12月に児童・保護者にアンケートをとりました。児童については全校児童を対象とし、保護者については、お子さん一人一人について回答していただきました(保護者の回答率96%)。御協力ありがとうございました。(結果については、「学校評価結果比較一覧表」を御覧ください。)

2 学校評価の結果と考察

児童にとって「楽しい学校」「学び合う学校」になっているのでしょうか？

まず、「学校は楽しい」の項目での肯定的評価が児童95%(昨年度93.1%、保護者96.7%(昨年度96.0%))となっています。私たちは、この数値に安心することなく、よりレベルの高い「学びの楽しさ」を求めて努力をしていきたいと思えます。なお、「楽しい」と答えることができなかった児童がいることも事実です。一人一人に寄り添った支援を心掛け、よさを生かし自己肯定感を高めて「楽しい」と感じることができるようになりたいと思えます。

「授業の内容がよく分かる」の肯定的評価の割合は児童92.6%、(昨年度は児童91.5%)、保護者では、「お子さんは、授業内容をおおむね理解している。」が88.2%(昨年度87.6%)でした。9割前後の児童、保護者が「授業がよく分かる」と答えています。授業の中でも、子どもたちが「よく分かる」「分からない」と感じる授業は、算数科であることが多いと思えますが、算数の授業でチームティーチング(2人の教師による授業)や少人数指導を行っていることによる成果が少なからず表れているのではないかと思えます。「確かな学力」を確実に身に付けていくことができるよう今後も授業改善を進めていきたいと思えます。

また、私たちが力を入れている「学び合い学習」の成果を観る指標の一つとなるように昨年から設けた、「クラスみんなは、自分の考えやよさを出し合い学び合っている」では85.9%(85.0%)という結果でした。「自分の考えを進んで発表している」「お子さんは自分の思いを分かりやすく伝えることができる」については、それぞれ児童72.4%(昨年度71.3%)、保護者61.4%(同59.4%)と昨年度から微増はしているものの、私たちが目標としている8割には到達しませんでした。



国語科では、自分の考えをもち自信をもって学び合いに参加できるように「文章に自分の考えを書き込む」などの手段をとって一人学びの充実を図ってきました。その結果、自分の考えをもつという点では、成果が上がりつつありますが、伝えようという思いをもって発表しようとしているかという点では、私たち自身もまだまだであるにとらえています。指導がまだ十分でないことを謙虚に受け止めて言語活動の充実に努めていきたいと思えます。

また、保護者も児童も「**進んで学習をしている**」「**進んで読書をしている**」がともに**低い数値**となっています。本校の児童は、「素直で明るい」けれども「自分で考えて行動すること」が課題であると私たちもとらえています。知的な好奇心を喚起させたり学習の楽しさや満足感・成就感を味わうことができるようにしたりして学習意欲の向上を図っていきたいと思います。

課題であった「あいさつ」「言葉遣い」は、よくなったのでしょうか？

昨年度の学校評価で数値が低かったのは、「言葉遣い」や「あいさつ」など生活の基本でもあるコミュニケーションにかかわる項目です。今年は、生徒指導面の重点目標の一つを「気持ちのよいあいさつと言葉遣いのできる子」として、力をいれてきました。

アンケート結果では、

○「**お子さんは、場に応じた言葉遣いができる**」保護者**63.3%**(昨年度**58.9%**)

○「**お子さんは、あいさつがしっかりできる**」保護者**77.9%**、(昨年度**74.1%**)

でした。どちらもポイントは上がっていますが、評価としては満足のいくものとなっていません。

あいさつについては、朝のあいさつ運動を始めとして、あいさつ練習や会釈の励行などいろいろな手立てを講じてきました。しかし、特定の人（校門で毎日児童を迎ええている校長やあいさつ運動をしている人など）にはできるのだけれど、すれちがった人にはできないということが課題として挙がっていました。「特効薬」はありませんが、いつでもだれにでも自然にあいさつができるように、今後も手立てを工夫していきたくて考えています。さっそく、3学期から通学区班に「あいさつリーダー」を設けるなどの新たな手立てを試みています。これからも児童への指導とともに家庭との連携を深め、家庭と共に改善を図っていきたくて思います。

開かれた学校になっているのでしょうか？

私たちは、地域に根ざした開かれた学校を目指しています。しかしながら、「**学校の様子は、地域に伝わっている**」(70.3%)、「**あなたは、学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容を知っている**」(66.2%)の項目で、目標に達していません。保護者からも、「**子どもの様子や情報を教えてほしい**」「**学校の様子をもっと知りたい**」という意見が寄せられました。

懇談会やPTA総会などの場やお便りなどで、学校が取り組んでいることや学校、子どもたちの様子をお知らせしていき、より「開かれた学校」であるように努力をしていきたくて思います。

また、参観会（自由参観会）や運動会、縄跳び大会などの体育行事以外にも、ドレミファコンサートやチャレンジランキング大会などの児童の創意を生かした活動、縦割り活動などがあります。いつでもお気軽に学校に足を運んでいただき、子どもたちの活動の様子を御覧いただければと思います。



ドレミファコンサート

3 保護者の意見から

次に、保護者からいただいた御意見についてですが、御意見の多かったものについて、今後の改善策など学校の考えについて述べさせていただきます。

御家庭への連絡に関して

「学校の様子を知らせてほしい」という件については、「開かれた学校になっているのでしょうか？」の項でふれましたが、それに関連して「**持ち物や保護者が参加できる行事などについて、もっと早く詳しく知らせてほしい**」という御意見もいくつかありました。できるだけ早めにと心掛けているのですが、準備物等を直前にお伝えして御迷惑をおかけしたこともあるかと思えます。配慮に欠けていたことをおわびいたします。持ち物等については、引き続き、声掛け、見届けなどの御協力をお願いいたします。

なお、学校からの緊急の連絡について、「**メール配信だけで十分ではないか**」という御意見もありました。メール配信の登録をされてない方がおられるので、本年度は、確実に伝わるようにと連絡網を使って次の方への電話連絡もお願いしてきました。皆様の御協力により、メール配信の未登録者がわずかとなってきましたので、来年度はメール配信だけでいくという方向で（未登録者への連絡方法を工夫することで、学級連絡網、地区連絡網なしでもスムーズに連絡が行きわたるかどうかを）検討しているところです。

安全指導にかかわること

集団登校で、「**間をあけたり、ふざけて歩いていたりして危険**」「**駐車場付近が危ない**」といった御忠告もありました。先日も、いくつかの通学班が通る小道において、道一杯に広がっていて危ないという御連絡をいただき、該当児童を集めて指導をしたところです。安全面の指導は十分過ぎるということはありません。お気付きの点がありましたら遠慮なく教えてください。また、御家庭でも交通安全について話し合ってみてください。

安全に下校できるように、できるだけ複数で帰るように指導していますが、「**下校時に車で迎えに来る子が多くて、一人で帰ってくることもある**」という御指摘もありました。雨の日には、車の送迎が多くなるのですが、体調がすぐれないなどの場合を除いて車で送迎は控えていただけたらと思います。

運動会より→

学校行事に関して

学校行事に関わることでは、「**運動会を1学期に実施してほしい**」「**自由参観会を休日に実施してほしい**」という要望がいくつかありました。

運動会については、春と秋、それぞれにメリットとデメリットがあります。昨年度もお伝えしましたが、私たちは、「子どもたちが主体的にかかわり、感動体験・達成感の味わえる運動会」にしたいという考えから今年は9月に開催しました。体育面や委員会活動などの特別活動の成果を発揮する



場、学級づくりを深める場となるためには、準備期間が必要です。児童の学校生活の歩みや学びの積み重ね、1年間の生活のリズムを考慮すると、やはり9月開催がよいと再確認しているところです。

自由参観会については、来年度は、5月21日（土）に行う予定です。この日の午後、磐田市一斉で高学年がジュビロ磐田のホームゲームを観戦するということが決まり、高学年が登校日となったことと合わせてこの日を自由参観会としました。休日を登校日とすることについては、平日が代休日となることで子どもだけで留守番をする家庭が出てしまう心配がある、というような課題も出ています。再来年度以降については再度、検討していきたいと思えます。

4 終わりに

ゆとりと活力のある教育活動に

「時間に追われ、いつも急いでいる感じがします」「子どもが相談したいときに、先生が忙しそうにしていると言えない・・・」

ゆとりある教育活動となっているのか・・・と振り返させられる声も寄せられました。

来年度からは、新学習指導要領が実施されます。

新学習指導要領の改訂の柱は、

- 「生きる力」を育成
- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
- 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成

です。内容面での主な改善事項は、「言語活動の充実」「理数教育の充実」「伝統や文化に関する教育の充実」「道徳教育の充実」「体験活動の充実」などです。そして、確かな学力を確立するために必要な時間として授業数が増加され、また、高学年では新たに外国語活動が設けられました。

授業時間数だけをとってみると、本校では、移行期前の平成20年度より、週当たり1時間（2年生のみ2時間）増えています。授業内容も当然増加するとともにこれまで上学年で行っていた内容が下学年へ下りてきています。保護者の中にも**「23年度から、勉強内容が増えることになって、不安」**だという方もありました。

「確かな学力」を保障するとともに、いかに子どもと向き合うゆとりを生み出していくか。本校でも、課題となっています。一日の生活の流れや学習発表会、リレー大会などの行事のもち方についても見直しを図り、どのように授業の充実に力を入れていくか、検討を重ねているところです。ゆとりと活力のあるバランスのとれた教育活動となるようにしていきたいと思えます。御理解、御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、その他にも、貴重な御意見をありがとうございました。学校改善の参考にさせていただきます。また、励ましのことばをたくさんいただき、勇気づけられました。重ねてお礼申し上げます。

これからも、よりよい青城小をつくっていくためにきたんのない御意見・御要望をいただけたら幸いです。



学習発表会（2年）